

能勢地域小中高一貫教育・連携型中高一貫教育 第10回研究発表会

11月21日(水)、能勢高校において、第10回目となる、「能勢地域小中高一貫教育・連携型中高一貫教育研究発表会」(大阪府教育委員会・能勢町教育委員会主催)を開催しました。当日は、高等学校課 恩知忠司 首席指導主事をはじめ、町内外からの来賓、教育関係者、保護者や地域の方々など、約200名に参加していただきました。研究発表会は第一部の授業公開と第二部の全体会の二部構成で行いました。

第一部授業公開では、総合学科の4系列(人文・理数系列、国際・情報系列、人間・環境系列、食・花・交流系列)それぞれの特徴的な授業実践を公開しました。中でも「総合的な学習の時間」の授業として、女優で心理カウンセラーの月田有香さんを講師とした「自己表現講座」のワークショップ、NGO“フリーザチルドレンジャパン”アドボカシー事業部長のフェイス・アマノさんを講師とした「世界の貧困と児童労働」のワークショップ、そして「心理学入門」の授業として、NPO CORE+ 代表の武田緑さんを講師に「町をデザインしよう!」をテーマとした熟議を取り入れた授業などでは、日頃から多くの外部講師の先生方を招聘した教育活動を実践している本校の総合学科としての特徴を広く知ってもらうことができました。

また連携型中高一貫教育の柱である「NS授業」(能勢スペシャルの略称、中高教員の相互派遣による国語・数学・英語の授業)では、本校の教員が連携中学3年生を対象に高校での学習内容を先取りした発展的な授業を行いました。さらに家庭科の「発達と保育」では、本校生たちと2歳児とその保護者との交流、農業科の「フルーツガーデン」では、ジャム作りを通じた小学生との交流授業を行いました。



「自己表現講座」



「世界の貧困と児童労働」



「町をデザインしよう!」(熟議)



「NS 国語」



「NS 数学」



「NS 英語」



「発達と保育」



「フルーツガーデン」



ユネスコスクール活動発表

第2部の体育館での全体会では、本校ユネスコクラブの生徒たちがユネスコスクールとしての活動報告を行いました。

そして、京都造形芸術大学 寺脇研教授をコーディネーターとして招き、公開授業の「心理学入門」での熟議で取り上げた話題を発展させる形で、「能勢町をデザインしよう！」をテーマにしたパネルディスカッションを行いました。授業の講師の武田緑さん、能勢高校を応援する会会長の西田彦次さん、本校生徒3名がパネラーとして活発な意見交換を行いました。

当日は天候にも恵まれて、能勢町の「小中高一貫教育」の取組成果を広く知っていただくことができ、大変有意義な発表会となりました。



パネルディスカッション